音羽·五条坂窯跡(道仙窯) 発掘調査広報発表資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2020年4月9日

所 在 地:京都市東山区五条橋東4丁目 448番ほか 調査期間:2019年10月17日~2020年2月14日

調査面積:約177㎡

1. はじめに

今回の調査は、ホテル建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査です。

調査地は音羽・五条坂窯跡の道仙窯に該当しています(図1)。道仙窯は、「入江道仙窯」や「道仙化学製陶所窯」とも呼ばれる明治から昭和にかけて陶磁器の生産を行っていた京式の連房式登窯です。この 室では生活用食器類だけでなく、医療などの場で使用されていた理化学陶磁器も生産していました。

道仙窯は、文献資料などから現在の場所に1893年(明治26年)以降に築造されたと考えられています。 昭和初期には年10回もの焼成が行われていましたが、その後は戦争の影響、戦後は電気窯やガス窯が普及したことによる、コストや大気汚染の問題、さらには職人の技術継承に対応できず、1968年(昭和43年)に閉窯しました。

2. 調查成果

(1)窯の構造

調査地の自然地形は、南から北へ緩やかに下がる傾斜面です。道仙窯は隣地(浅見五郎助窯)との関係で南側に焚口を設ける必要性から盛土によって南下がりの土台を造り、この上に窯が構築されました。

窯の南側には、前庭部と呼ばれる作業場があります。窯は、南から胴木間と呼ばれる燃焼室、後方に6室の燃成室、北端の煙室から成ります。平面形はいわゆる馬蹄形で、焚口は1つ、焔が通る狭間穴が後室の床面と同じ高さである横狭間構造であり、「京式」と分類される登室です。

(2)窯の変遷

調査の結果、窯体には大きく2回の造り替えが確認でき、時期は古・中・新の3段階に分けることができます(図2~4、各所の規模は表1)。

古段階

窯は胴木間と奥壁の一部を確認し、全長9.8m、幅5.6mと推定されます。この段階の前庭部は、地面を掘り込んで造られており、東側にステップ、作業面の下層には排水設備と考えられる土管や土坑、桶を埋め込んだ遺構(水溜)がありました(図7)。また、この時期に対応する窯の土台となる盛土北側の石垣も確認できました。

②中段階

窯は全長10.4m、幅5.6mで、古段階の窯よりも胴木間の位置が約1.2m北へ移動していたことを確認しました。胴木間の移動に伴い、全体的に北へ移動し、全長もやや大きくなっています。6の間の北壁基底部に煤が大量に付着していることから、この段階の煙室は6の間の上部に取り付けていたと考えられます。また、窯の移動に伴い土台北側の石垣は解体され、新たに約1m北側に築き直されていることも確認できました。

③新段階

窯は全長10.4m、幅4.6mで、調査によって中段階の窯の西側を約1m縮小していたことを確認しました。この段階の煙室は、6の間の後ろに設けられていました。前庭部は古・中段階のものの周囲を埋めてつくり直されています。さらに、北・西側の土台は一部拡張されています。

3. まとめ

今回の調査では、道仙窯における窯体の下部構造・改修履歴を明らかにすることができました。窯体の状況や変遷の過程を全面的に調査できたことは、京焼の歴史の解明にとって極めて重要な成果と言えるのではないでしょうか。

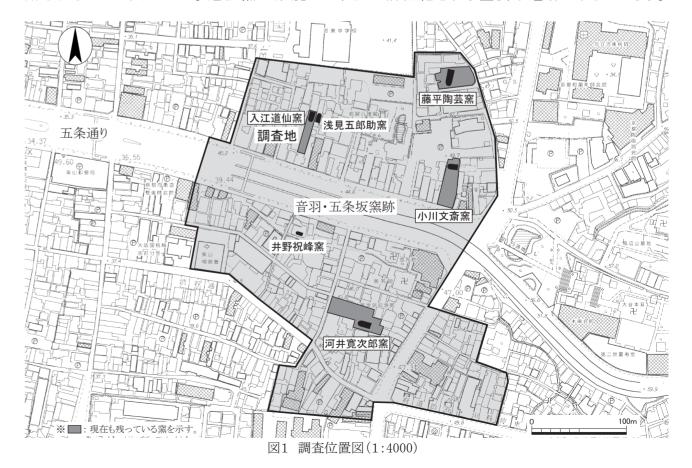
五条坂周辺では明治時代初頭に登窯が20基程ありましたが、徐々に登窯による陶磁器の生産が減少

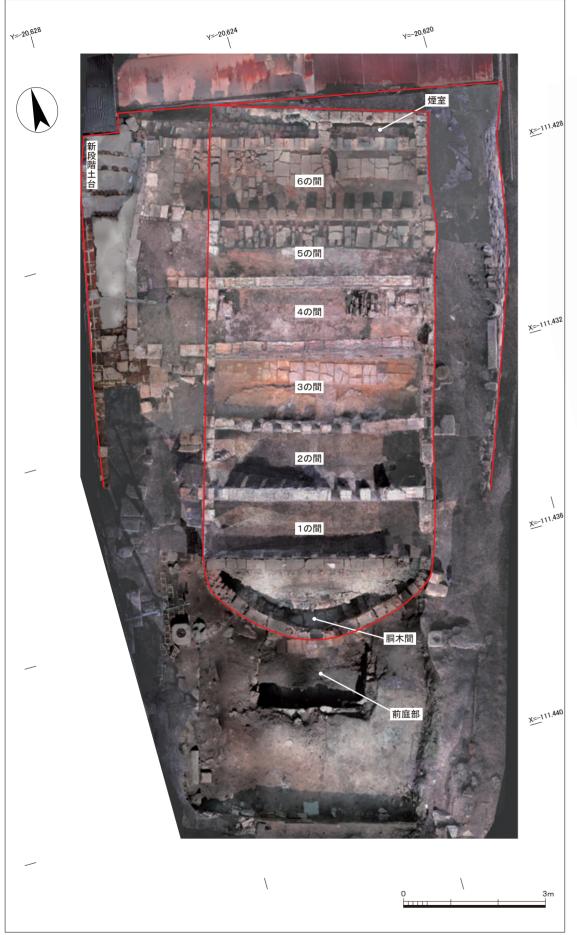
表1 窯の規模 変遷表

時期 場所	古段階		中段階		新段階 (閉窯時)	
全長	全長	9.8 塩	全長	10.4	全長	10.4
	幅	5.6	幅	5.6 瘤	<u>↑</u> 幅	4.6
胴木間	奥行	不明	奥行	1.4	奥行	1.4
	幅	5.6	幅	5.6 =	<u>小</u> 幅	4.6
焼成室	奥行	不明	奥行	1.4	奥行	1.4
	幅	不明	幅 5.4	~ 5.6 ^縮	<u>↑</u> 幅	4.6
煙室	奥行	不明	奥行	不明	奥行	0.8
	幅	不明	幅	不明	幅	4.6
前庭部	奥行	1.6	奥行	不明	奥行	1.5
	1111	3.4	幅	不明	幅階段	
	階段有り				平場:2	

し、各窯は閉窯に追い込まれていきます。2015年(平成27年)には閉窯した6基の窯が残されていましたが、開発の波にのまれ、現在では道仙窯を含めて4基のみとなってしまいました。

道仙窯は幸いなことに株式会社インテリックスのプロジェクトで窯体の一部が保存され、文化遺産として活用されることとなりました。道仙窯は京焼・五条坂の活性化を担う重要な遺跡となるでしょう。





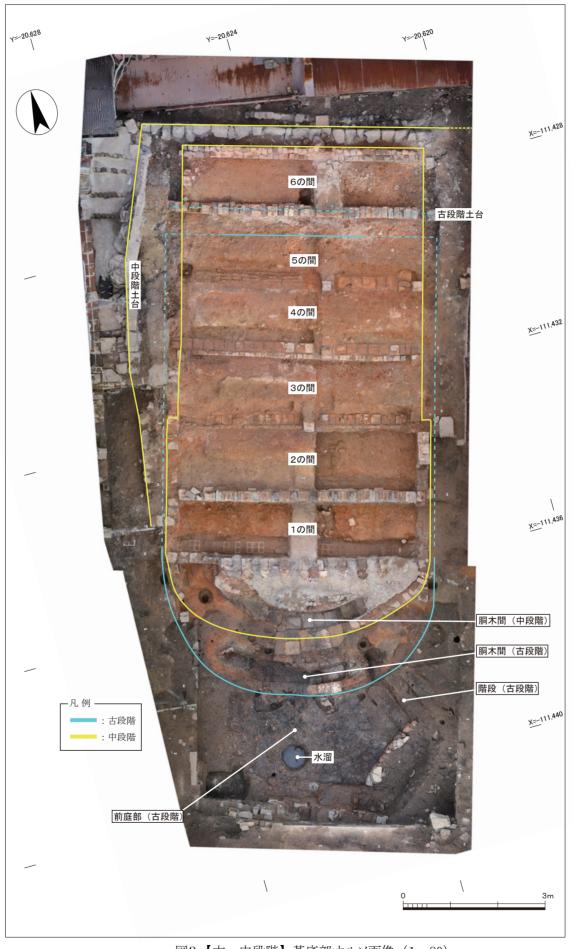




図5【中・新段階】土台東側石垣(南東から)



図6【新段階】3の間北壁(南西から)



図7【古段階】排水設備(南西から)

図2【新段階】レーザー測量画像(1:80)

図3【古・中段階】基底部オルソ画像(1:80)